

# その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.136

## 田中 康夫



たなかやすお ● 56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。「文藝」（河出書房新社）2013年冬季号から17年ぶりに小説の連載を開始。【公式ブログ】<http://www.nippondream.com/>



Yassy

## 麦とろ定食が絶品。路線バス旅で訪れる、城南の台所的存在

### 今週の逸品



### 麦とろ紅鮭定食

1800円(税込) 1580円(昼食時)

僕の生年と同じ昭和31年創業の大黒屋は目黒通り沿い。碑文谷5丁目交番バス停下車。HP記載の何れも税込みで530円からの豊富な単品料理を揃って、定食若しくはとろろセット(1050円)でめる選択も。超高齢社会

TOKYOを実感する東98系統は港区・千代田区に乗り入れる東急バス唯一の路線。1987年までは朝の通勤時間帯に首都高速2号線を利用して目黒・霞が関両ランプ間をノンストップ運行するサービスも存在。

【大黒屋】東京都目黒区碑文谷5-7-2 ☎03-3712-8226 営11:30~14:30(L014:00)、17:30~22:00(L021:30) 水曜定休 禁煙 <http://daikokuya-syouten.jp/>

illustration by Hajime Anzai



だった90年代初め、免停期間中には起点から終点まで70分余のバス旅を楽しんだものです。

言わずがな、無機質な首都高速が上部に設けられた玉川通りと異なり目黒通りは、駒沢通りより遙かに広い幅員とも相俟って、自然光が降り注ぐ時間帯にバスで通過すると開放感を味わえます。家具を初めとした生活に根差したアプライドアーツを扱うブチックが両側に増殖し続ける目黒通りを走る度に僕は、高品質な食材を扱うミラノのワグネル市場を過ぎて西郊のノヴァーラへと続く街道を想起するので。

「大黒屋」は、その目黒通りが環七と交差する柿の木坂手前、ダイエー碑文谷店の斜め向かい側に位置する麦とろ定食で知られる城南の台所的存在。元来は米穀店として58年前に創業。料理も供して今年で36年。写真の麦とろ紅鮭定食は紅鮭の粕漬け焼きに小鉢、味噌汁、味噌汁、とろろ汁と刻み海苔が付いて1800円。麦飯は一杯お替わり可。

眼旗魚、鰯田舎煮の麦とろ定食、とろろ無しの白米定食、更には魚料理を省いたとろろセットも。出来れば平日に訪れ、驚く程に豊富な単品料理を、とろろと麦飯の前に酒精と共に味わうのを勧めます。入口脇では新潟産こしひかり「俺の米」も販売。バス旅で訪れる価値を十分に有する逸軒です。

70年代後半の学生時代、時間を見付けては路線バスに乗車し、東京都内の全線踏査に挑戦したものです。環七経由で新宿駅西口と王子駅を結ぶ初心者向け王78辺りの長距離路線を手始めに。

気に入って幾度も城北地区で乗車したのは何れも渋い、東京駅丸の内北口と西新井駅を結ぶ東43、上野松坂屋前と南千住汐入を結ぶ上46の都営バス2系統。現在は日暮里・舎人ライナー江北駅止まりの前者は千代田・文京・北・荒川・足立と異なる様相の

街並みが車窓に展開します。田端駅を過ぎ、工場と住居が混在する隅田川との中州に当たる小台を巡りして荒川土手を走る区間は今でも精彩を放ちます。

瀟洒な高層集合住宅群へと現在は一変した後者の南千住汐入は嘗て、隅田川沿いの荒涼たる一帯。吉原大門、山谷の泪橋を経て鉄道貨物駅の先の空地にぽつねんと置かれた停留所こそ、路線バスの終点に相応しい情景でした。他方、城南地区では渋谷駅と大森駅を結ぶ渋33、東京駅丸の内南

口と等々力操車場を結ぶ東98が最良でした。何れも東急バス。その後多摩川駅止まりとなった前者は都立大学、雪が谷大塚、下丸子、池上の各駅前を、抜け道の如くにぐねぐねと経由するバス路線。城南の薫りを満喫させる乗り出のある路線でした。

而して昨春までは都営バスと共同運行、現在は単独運行の後者は帝国ホテル、東京タワーと御上りさんな気分を味わいながら気付くと清正公前から目黒通りを環八まで進む鉄板路線。後に等々力在住